

# 第3学年通信 (第2号)

令和2年5月7日発行  
福岡県立久留米高等学校  
校長：木本 和宏  
第3学年主任：中尾 朋浩

## 学年団挨拶

### 1年間よろしくお祈いします！

#### < 1組 >



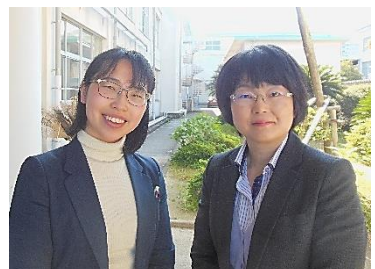
**担任：千倉 美和 (英語) 左**

いよいよ3年生ですね。皆が学校の顔として活躍する姿を早く見たい、受験という壁に挑む皆を早くサポートしたいと、うずうずしていました。こんな時こそ「平常心」を忘れずに頑張りたいと思っています。

**副担任：梅本 美樹子 (保健体育) 右**

この学年に所属できて嬉しく思います。皆さんの中には先行き不透明で不安に感じている人もいます。そんな時は一人で悩まず、相談して下さい。こんな時こそ笑顔でいたいですね。

#### < 2組 >



**担任：石川 美穂 (国語) 右**

縁あって、3の2を担当することになりました。よろしくお祈いします。一日一日を大切に、そして、丁寧に丁寧に過ごして、希望進路を実現しましょう！

**副担任：西峯 礼子 (英語) 左**

I'm so happy to be able to learn with you again!

いよいよ3年生ですね。受験はこの先の進路を決めるだけでなく、大きな挑戦ができる貴重なチャンスです。思い切って一歩一歩進んでいこう！

#### < 3組 >



**担任：阿由葉 雪江 (国語) 右**

初めまして。前任校で3年生を卒業させたばかりですが、また、ここで皆さんと新しい一歩を踏み出したいと張り切っています。進路実現に向けて一緒に頑張ります！

**副担任：淵上 敦浩 (数学) 左**

3年、1年、3年といった具合に、この学年とは縁がなく、初めて所属します。私は、何事にもゆっくりです。君たちの動きに遅れないよう頑張りますので、よろしくお祈いします。

#### < 4組 >



**担任：中尾 朋浩 (英語) 右**

3年目が始まりました。今年は「大きく飛躍する年」です。受験というのは人間力を育てることに繋がります。目標がぶれることのないように、最後まで突き進みましょう！

**副担任：福田 泰代 (理科) 左**

大切な高校生最後の年に、みなさんと一緒に勉強できることを大変うれしく思います。不安になることもあるでしょうが、お互いに励まし合い、手を取り合ってみんなでゴールを目指しましょう！

#### < 5組 >



**担任：向家 拓郎 (数学) 右**

先が見通せないですね。不安ですね。しかし状況は皆一緒。考え次第では、周りの受験生と差をつけることができる時期。何事も成果として見えるのはごく一部。その裏には多くの努力がある。頑張れ——！

**副担任：穴見 陽一 (地歴・公民) 左**

「今こそ初心に返るべし。」先行きが全く見えない中、自問自答するところから始めてみませんか？私は授業再開に備えて、毎日「地理」の教材研究を行っています。

#### < 6組 >



**担任：永尾 健太 (理科) 中央**

皆の勝負の年と一緒にがんばれるのを大変うれしく思っています。大変な一年ですが、私のたっぷりの愛情で乗り切ってください。つらいときこそ自分への厳しさと、周囲への思いやりを忘れずに！

**副担任：山浦 寿之 (英語) 左**

いつも壇上で話をしていますので、遠い存在かもしれませんが、副担任ではありますが、3年ぶりのクラス！頑張りますので、どうぞよろしく！

**副担任：菅谷 嘉奈子 (数学) 右**

～意思あるところに道は開ける～ どんな想いで1年過ごすかは、人生を大きく左右します。豊かな人生を送るため、想いを形にしましょう。1年間しっかりサポートしていきます。

気になる先生方の声は、ぜひ学年紹介の動画で確認をしてくださいね 🎥  
はやく皆さんと学べる日が来ますように...！それまでは Keep calm and stay home!

## 「挑戦！」

3年3組担任 阿由葉 雪江

私は、高校生の頃からずっと願っていたことがあります。それは日本語教育に関わる形で国際協力をしたいという夢です。大人になった今、1年間限定という形ではありますが、それを実現することができましたので、ここで紹介したいと思います。そして、先の見えない不安な状況の今、これを読んでくれる皆さんに、少しでも元気を届けられるように願っています。

一昨年度、私は国際交流基金が主催する「日本語パートナーズ」というプログラムに参加しました。応募する時には家族や友人からは驚かれましたが、私はどうしても挑戦したかったのです。派遣先は、タイ王国のナコンシータマラート県。有名なプーケット島やサムイ島の近くです。年間を通じて30℃以上ありましたが、南部なので海が近く、爽やかな気候でした。道端にはパイナップルやマンゴスチンの木があり、朝は鳥の声で目覚め、ココナツの木をリスが走り回るのが見えました。毎朝、闘牛用の牛が散歩している横を自転車で通り抜けるという、スリル満点の通勤をしていました。

派遣校は中高一貫の王立校で、生徒数2800人という大規模校です。中学生は第二外国語として好きな言語を選び、週2時間勉強します。高校生は日本語専攻クラスが学年に1クラスずつあり、文法や会話をみっちり勉強します。私はネイティブとして、発音練習や会話練習の相手をしたり、作文を添削したりしました。タイには親日家が多く、日本語を選択していない生徒も日本語で「こんにちは」と声をかけてくれ、とても嬉しく温かい気持ちになったものです。そして、いつまでも「好き」といつてもらえるに値する日本でありたい、と強く思いました。また、時にはマイノリティとしての自分を実感する場面もあり、貴重な経験となりました。

このように、言葉も環境も違う異文化の中で生活するうえで、「出来ない」とか「違う」と切り捨てるのではなく、まず「やってみる」ことを心がけました。例えば、授業の方法も内容も日本と全く違います。現地の先生方と相談しながら、調理実習をしたり、歌を歌ったり、デジタル教材を作ったりと、日頃とは全く違う方法にも挑戦しました。タイでは予定が変わることが多く、なかなか（ほとんど）準備した通りにいきません。予測不可能な状況に、「うそだろー！」と叫ぶことも多々ありましたが、それもまた、貴重な異文化体験でした。

まだまだ紹介したいことはありますが、とりあえずはここまでにします。皆さん、ぜひ広い世界に目を向けて、色々なことに挑戦してください。そして、自分の夢を追い続けてください。諦めなければどんな形であれ、必ず叶えることができるのです。



## 「朝の1杯のコーヒーから社会を考える」

3年2組副担任 西峯 礼子

今回はTED Talks（あらゆる分野のエキスパートたちによるプレゼンテーションを無料で視聴できる動画配信サービス）から *My journey to thank all the people responsible for my morning coffee* というトークを紹介します。プレゼンターはアメリカのジャーナリスト A.J. Jacobs という人です。多少ネタバレになるので、気になる人は下のQRコードから動画—15分くらい。日本語字幕付きで英語の勉強になる！—を見たあとに続きを読んでください。

内容を簡単に説明します。息子のある一言をきっかけに、「朝のコーヒーを担う全ての人々に感謝する旅」に出た Jacobs は、結果的にアメリカだけでなく世界中の1000人以上の人々に直接感謝を伝えに行きます。その旅から、彼は世の中のうまくいっている何百ものことに目を向けるようになり、また世界が驚くほど密接につながっていると感じます。

トークの中では、その旅で得た教訓のうち重要な5つを紹介していますが、その5つ目にグローバル化、グローバル社会の話が出てきます。「コーヒーを作るには、村一つでは足りない。世界なんだ。(It doesn't take a village to make a cup of coffee, it takes the world!）」という言葉とともに自分たちの世界に引きこもってはいけない、自分たちのことだけを考えて生きていてはいけないと伝えています。

グローバル化と言うと、日本にいる外国人の増加や外資系企業の進出などが思い浮かびますが、もっとずっと身の回りでも、意識をしていないだけで、世界の人々と繋がっていると感じるものがたくさんあることがわかります。例えば、マスク。Made in Japan と表示されている製品であっても、その材料はどこからきたのでしょうか。その製品が手に届くまでに何人の人が関わっているのでしょうか。何気なく着ているその洋服は誰がその糸を縫い合わせているのでしょうか。糸は誰がどのようにして作ったのでしょうか。このように考えていくと、Jacobs と同じような感謝の旅を頭の中ですることが出来ます。さらには、自分たちがどういう世界で生きているのかを学ぶこともできます。私たちは一人だけれども、一人で生きているわけではないのです。

緊急事態宣言が発表されている今、皆さんには頭の中で考える時間がいつもより多いと思います。この話を通して伝えたいことは、「何事にももっと感謝するべきだ」「ニュースや新聞を通して社会に目を向けるべきだ」ということではなく、現在どんな社会の仕組みの中で生きているのかを考えて、知ろうとしてほしいということです。外国語もそうですが、単語が「聞こえる」ようになってから、分かるようになってから一気に勉強が楽しくなります。社会も同じです。自分の見える世界を広げて、楽しく学んでいきましょう！

